こうちミュージアム ネットワーク通信

2025 VOL.22

目次 CONTENTS

●河田小龍３館連携企画 …… P1
●随想：新 なかとさ美術館 …… P2
●会員館紹介「特定非営利活動法人 地域文化計画」「高知に自然史博物館をつくる会」「寺田寅彦記念館友の会」‥ P3
●令和７年度会員館イベント情報 …… P4～5
●双子のすくすくだより、活動報告：第18回四国ミュージアム研究会愛媛大会 …… P6
●研修報告、令和６年度活動報告 …… P7
●会員一覧 …… P8

◈河田小龍3館連携企画

昨年（令和6年）は河田小龍の生誕二百年にあたる年であった。それを記念し、（公財）高知県文化財団が指定管理者として運営管理する県立3館（美術館、歴史民俗資料館、坂本龍馬記念館）が連携企画した展覧会「生誕二百年河田小龍展」を昨秋開催した。

河田小龍は、幕末土佐を代表する絵師であり、当代随一の知識人であった人物であり、様々な画風を身につけ、様々な画題を描き残している。それも、軸や巻子だけでなく、絵馬や調度品、幟類など多種多彩な形態の作品としている。また、坂本龍馬に今後の日本のあり方を示唆し、弟子を彼の元に送り込んだという一面も持つ。多才な人物であった。

本展は、この幕末維新期の巨人である小龍の業績を3館で紹介しようという試みであった。画業全体は美術館、民衆との関わりから生まれた作品は歴民館、幕末の時代背景や龍馬との関わりは龍馬記念館、と各館の特色にあわせた展示を行った。

今回の展覧会では、展示できなかった作品を「こちらから」鑑賞に行くバスツアーを2回行った。神社の絵馬や家屋の中など、展示室とは一味違った見方ができたのではないだろうか。また、小龍が生まれた高知市はりまや町周辺のウォーキング、彼が得意とした漢詩についての上本竹永氏（県漢詩連盟会長）によるミニトーク、彼が生きた時代の美術のあり方全体についても木下直之氏（静岡県立美術館長）による講演会などの普及事業を行った。担当学芸員の講座（美術館）や展示解説（3館）とあわせ、小龍とその時代についての理解を深めていただけたのではないかと考えている。

文化財団の施設が企画段階から連携した展覧会はこれが初めてである。そのきっかけは、二十年ほど前美術館に寄託された「小龍日記」を読む会を五、六年前に始めた事であった。興味を持った数人の文化財団の学芸員が勤務後に集まり、細々と読み始めたことがこの展覧会の端緒であった。（日記は十年分の半年分くらいしか読めていないが…。）

また、初めての試みとして、人気イラストレーターの柴田ケイコさん（高知市在住）に依頼し、オリジナルキャラクター「しょうりょうさん」を描いていただき、広報物をはじめ、様々な場面で活躍してもらった。

膨大な数の作品と幅広い画業、志士たちとの関係など、小龍がスケールの大きい絵師であったからできた連携企画だったかもしれない。小龍については、取り上げたい点は色々残っている。次回はいつになるだろうか？

（高知県立坂本龍馬記念館　河村章代）

＊普及事業の一部は（一財）地域創造の助成をいただき、実施しました。

左上：ミュージアムネットワークの研修（歴史民俗資料館）
左下：展示の様子（坂本龍馬記念館）
右上：帯屋町吊看板
右下：スペシャルトークイベント（美術館）

随想

新 なかとさ美術館

中土佐町立美術館　館長
市川 雅彦

中土佐町立美術館は、町出身の実業家・町田菊一氏のコレクション寄贈にともない、高知県初の絵画美術館として平成元年に開館、以来「小さな町の小さな美術館」として多くの方に親しまれてきました。しかし海岸に近く、いざという時には全て消滅してしまう危険と隣り合わせの美術館でもあります。

東日本大震災での津波災害を目の当たりにした2011年、美術館運営委員会で危惧される現状について問題提起をし、機会あるごとに美術館の重要性を発信してきました。しかし、役場などの公共施設が高台移転する中、町立美術館は後回しにされてきました。2019年にやっと新美術館建設策定委員会が開かれた段階でも、なぜか予定地さえ決まっていない状況でしたが、2021年から新たに学芸員も加わり徐々に機運は醸成されていきました。

そんな中、町の指定金融機関である高知信用金庫から「ふるさとの未来貢献パートナー協定」に基づく1億円の寄付を受けました。これは美術館が移転できない場合は返さなければいけないという条件付きのもので、ここから移転計画は一気に進んでいきます。

2022年6月議会で「新中土佐町立美術館基本設計」に係る予算承認が可決され（賛成7・反対4）、10月には新美術館基本設計委託業務プロポーザルを経て上田建築事務所に基本設計を依頼、そして、翌年5回の建設検討委員会を重ねることで新美術館のイメージが明確になってきました。

総事業費は約5億円、過疎債と寄付金を活用することで町の実質負担は約5千万円となります。これまで高台移転が議論される中で、「身の丈に合ったものを」という言葉をよく耳にし、また、「どうせ作るなら誇れるものに」という声も聞かれました。

敷地や予算に限りがあり致し方ない面は多々ありますが、収蔵庫やささやかな工夫が隠された展示室以外に多目的の兼用スペースを設けることで、上記の相反する言葉を満足させる美術館が実現しようとしています。

アートスペース《なかとさ》

搬入荷解室をその必要がない時に町民ギャラリーとして活用し、創作活動を行う個人やグループの作品発表の場として貸し出します。展示作品の予約販売も可能で、販売価格の20％を手数料として町に納付できるよう条例も改正されました。次年度の展示希望は毎年11月3日から受付けます。

カフェスペース・ギャラリー《のじ菊》

ノジギクは旧中土佐町花、当館創設者町田菊一氏の一文字をいただきました。エントランス内に、毎月一作家の展示作品の即売ができるレンガ壁のギャラリーを設け、美術書に囲まれたカフェスペースでは太平洋を望みながらのひとときをお楽しみいただけます。

キッズ&フリースペース《ここぐさ》

当館が立つ丘の地名が小々草です。彩り豊かな草花のようにのびのびと子どもたちが育ってゆくことを願ったキッズスペースです。ワークショップ開催にも便利な画材室や授乳室も設け、美術館を身近に感じることができる創造ひろばです。

なかとさ美術館平面図

当館は、日本の美術史に残る作家に加え、高知の文化を創ってきた作家たちの作品を収蔵し、ささやかながら様々な切り口で企画展を開催してきました。貴重な文化を次の世代に継承していくことはもちろんですが、その延長線上にあるこれからの作家を育てていくこと、そして、地域に美術文化を広げ根付かせることも美術館ができる役割であると考えます。

〈アートスペースなかとさ〉や〈ギャラリーのじ菊〉での展示を見て、感性を刺激するだけでなく、気に入った作品があれば購入し、家庭でいつでも眺めて安らぐことができる、そんな芸術が身近にある環境を夢に見ています。

「芸術は土佐の海浜より」

7月19日にプレオープンを迎える新たな美空間、なかとさ美術館にご期待ください。

2025年2月22日撮影

会員館紹介

特定非営利活動法人 地域文化計画

特定非営利活動法人 地域文化計画は、文化芸術を基盤とする社会の創出のために、文化芸術の振興とそれによる地域活性化を支援する団体です。２０１９年３月に設立し、今年で７年目を迎えます。会員には博物館や美術館などで勤務経験のあるメンバーが多く、わたしは昨年度からインターンシップとして活動に参加しています。

これまで地域文化計画では、個人や市町村から依頼を受けた文化財の調査や、美術品・文書資料の保存・修復、トークイベント・ワークショップの開催、ミュージアムや図書館の活動支援など、さまざまな事業を展開してきました。

わたしも昨年11月に『山に生きる 福島・阿武隈 シイタケと原木と芽吹きと』の著者・鈴木久美子さんをお呼びしてトークイベントを企画、実施しました。準備から当日まで初めて経験することが多くありましたが、たくさんの方の助けを借りて無事に終えることができ、これからも新しいことに挑戦してみようと思えるようになりました。

ひとつの施設や組織という枠を越えて、個々人が自身の経験や専門分野を活かしつつ、やってみたいことに挑戦できる、そんな場所をみんなでつくっていければと思います。

（特定非営利活動法人 地域文化計画　久原　美桜）

高知に自然史博物館をつくる会

こうちミュージアムネットワークが令和３年に実施した「高知県の自然史標本の情報を県民と共有するための事業」によって、現在本県には多種多様な生物標本があることが分かりました。しかしながら、その保管状況は芳しくなく、必ずしも永続的に本県に存在し続けられる状況ではないことも判明しました。これらの生物標本の中には、『高知県レッドデータブック２０１８動物編』で絶滅や絶滅危惧に指定されている種が含まれ、改訂したレッドリストランクを判断した証拠となる資料が含まれていたり、学術的に貴重な資料も含まれたりしていますが、今後どの程度の期間現状のまま維持できるかわからないものが多く見受けられました。これらの生物標本は高知県の自然を理解するために重要な資料であり、採集当時の自然環境の証拠となるものです。これらが今後県外に流出したり、消失したりした場合には、再び入手することは不可能であると考えます。

これらのことから、高知県に現存する生物標本を受け入れ、永続的に保管管理して、後世に伝えるとともに、その時々の高知県の自然環境に興味を持つ研究者を含む多くの人に利用できる体制を備えた県立自然史博物館の設置を高知県へ働きかけることを目的に、「高知に自然史博物館をつくる会」を令和６年５月１日に設立しました。

これから県職員、自然史科学分野の有識者、多くの県民の方々とともに、情報と意見の交換を行いながら、自然史博物館設立に向かっていきます。

（高知に自然史博物館をつくる会　谷地森　秀二）

寺田寅彦記念館友の会

現在の寺田寅彦記念館は、戦災で焼失した寺田邸を復元して昭和59年11月に開館しています。寺田寅彦記念館友の会は、平成６年から活動を始めました。

今年でちょうど30年となります。主として「寺田寅彦の人と作品や業績を研究し、会員相互の研鑽と親睦を深め、高知県の教育の向上に資する…」等の活動をしています。

ところで、朝日新聞社が２０００年に実施した「この１０００年『日本の科学者』読者人気投票」によると、寺田博士は第14位でした。私たちは、日本社会に寺田博士の偉大さが十分に伝わっていないことを残念に思っています。そこで「夏目漱石との師弟関係やノーベル賞一歩手前の研究のこと、高知を舞台にした数多くの随筆のこと」などを語り継いでいかねば…と考えています。一方、オーテピアに立つ銅像と説明板によって少しは見直されてきているかなと感じたりもしています。

今後も、高知ゆかりの科学者であり、文学者でもある寺田寅彦の優しさを伝えていきたいと「ＮＨＫ朝ドラ化」の署名活動も始めたところです。よろしくお願いいたします。

紅葉真っ盛り（令和6年12月10日）
～寺田寅彦記念館（城西公園の北側）～

（寺田寅彦記念館友の会　宮　英司）

令和7年度　会員館イベント情報

香美市立美術館

◆ **平田慎一展　時のうつろい**

期間　令和7年4月12日㊏～5月25日㊐

高知市出身で高知大学卒業後、教職につきながら画業に励み、県展や一陽会でも活躍した平田慎一。過ぎ行く時間の中で集積するものを表現してきた平田の真摯な姿勢から生みだされた作品を是非、多くの皆様に御紹介したいと思います。

▶4月12日㊏　ギャラリートーク
▶4月27日㊐　ワークショップ
講師：平田慎一「自然木を題材とした鉛筆デッサン」

◆ **やなせたかしの時代・大正の夢は続く**

期間　令和7年6月7日㊏～7月21日㊊・㊗

収蔵作品のなかから、やなせたかしと同時代を生きた画家たちの作品を紹介し、やなせの作品と合せて展示いたします。大正時代以降の世の中の歩みと彼らの画業を改めて見ていただきたいと思います。

安田まちなみ交流館・和

◆ **「やすだの百年展」**

期間　令和7年3月15日㊏～7月13日㊐

安田町が町制100年を迎える令和７年に、町制施行されてから100年を振り返る展示です。

◆ **石田英吉展（仮）**

期間　令和7年7月19日㊏～令和8年2、3月【予定】

令和６年に石田英吉の直筆の書簡が発見されたことを受け、改めて石田英吉にスポットを当てます。

高知県立埋蔵文化財センター（公益財団法人高知県文化財団）

◆ **企画展Ⅱ**
－土佐のまほろば新発見－ 若宮ノ東遺跡

期間　令和7年10月12日㊐～令和8年3月31日㊋

若宮ノ東遺跡は南国市篠原にある弥生時代から近世の遺跡で、重要な発見が相次いでいます。弥生時代から古墳時代にかけての県内最大規模の集落跡、古代の長岡郡（評）衙跡、中世の有力者の屋敷跡などが確認されました。特筆すべき遺物として、文字の刻まれた土器があげられます。漢字に接する機会がほとんどなかった時代のもので、日本人が漢字に接し、浸透していく過程を解明できる重要な資料です。

中岡慎太郎館

◆ **尾﨑卓爾　－中岡慎太郎を語り継いだ人物－**

期間　令和7年10月11日㊏～11月17日㊊【予定】

尾﨑卓爾は北川村出身の新聞記者で、日本で最初に中岡慎太郎の伝記『中岡慎太郎先生』を執筆した人物。尾﨑が同書に込めた中岡慎太郎の礼賛は「郷土の英雄」から、改版時には「維新回天の立役者」の一人へと発展した。その変化の理由および幕末志士礼賛の変遷をたどります。

本山町立大原富枝文学館

◆ **大原富枝と柳瀬夫妻①**
『小さなジョーの物語』執筆のころ　～敗戦の日本を生きる女たち～

期間　令和7年8月3日㊐～10月13日㊊

◆ **大原富枝と柳瀬夫妻②**
『小さなジョーの物語』刊行のころ　～茶道と出会って（仮題）～

期間　令和7年10月21日㊋～12月27日㊏

昭和26年から32年にかけて戦災孤児ジョーの物語が「面白倶楽部」等に発表されます。昭和54年、一連の作品は、敗戦以来の友人やなせたかし氏の装幀により特別な1冊『小さなジョーの物語』として刊行されました。本展前期では文学の方向性が定まらず苦しい模索を続ける大原の姿を、後期では茶の師柳瀬宗暢氏（やなせたかし夫人）との交流とともに、自身の文学の道に邁進する大原の姿を辿ります。

大原富枝『小さなジョーの物語』毎日出版社

高知県立のいち動物公園

◆ **野鳥の写真展 in のいち動物公園**

期間　令和7年3月20日㊍・㊗～5月18日㊐

高知の野鳥を中心に、身近にいるさまざまな野鳥の写真を展示します。
【共催】日本野鳥の会高知支部

◆ **第33回のいち動物公園写生コンテスト作品募集**

募集期間　令和7年　9月1日㊊～10月31日㊎
作品展示　令和7年12月～令和8年1月
対　　象　小学生（応募は一人一点）

※展示は入賞以上の作品のみ。
応募規定等詳細はHPでご確認ください。

高知県立文学館

◆ **怖い文学展**
～高知県立文学館×香美市立美術館～

期間　令和8年1月17日㊏～3月22日㊐

平成29年・30年・令和4年と3回にわたり「怖い絵」展を開催した香美市立美術館とコラボした展覧会。当館が所蔵している関連本等も紹介し、絵や文章、その背景にまでスポットを当て、文学の新たな魅力に触れていただきます。

藁工ミュージアム

◆ **第5回藁工アンパン　アートバザール**

売る人　令和7年11月14日㊎～11月20日㊍
観る人　令和7年11月14日㊎～12月　7日㊐
買う人　令和7年11月22日㊏～12月　7日㊐

「アートだ！」と思う作品なら、誰でも販売することができるアートバザールです。「アンパン」は「アンデパンダン」の略称で、審査なく誰でも自由に作品を出品できる展覧会のこと。作品を売りたい方は、会場の好きな場所・広さで展示することができます。作品を観たい方・買いたい方は、展示作業が行われる期間から観ることができます。展示も購入も早い者勝ち！ぜひお越しください！

なかとさ美術館

◆ **奥谷博展　ー藝術無終ー**

期間　令和7年10月30日㊍～12月7日㊐

新美術館グランドオープン後の第2弾の展覧会です。宿毛市出身で2018年文化勲章を受章、第1、3回の当館大賞展の審査員をつとめ、現在も精力的な制作を続ける洋画家奥谷博、宿毛市所蔵の大作を中心に当館所蔵作品と合わせて展示します。

奥谷博「翔舞」

横山隆一記念まんが館

◆ **伝「やなせたかしと横山隆一」展**

期間　令和7年3月8日㊏～8月31日㊐

「アンパンマン」の作者やなせたかしと、「フクちゃん」の作者横山隆一という高知出身のまんが家二人の関わりに焦点を当てた企画展。やなせは10歳年上の先輩である横山を知り、まんが家という職業を目指したとも言います。二人の自伝や関係者の証言を元に、あまり知られていないエピソードや作品を紹介します。

© やなせたかし

四万十市郷土博物館

◆ **３階展示室企画展「まちの灯り」**

期間　令和7年2月8日㊏～5月27日㊋

生活のなかに当たり前にある「灯り」ー　その「灯り」の時代にともなう変遷を紹介するとともに、四万十川流域での漁や祭り、イベントの中で見られる「灯り」についてもスポットを当てます。

高知県立高知城歴史博物館

◆ **企画展「野中兼山」**

期間　令和7年9月13日㊏～12月7日㊐

野中兼山は土佐藩主山内家の執政家老で、新田開発や港湾整備・殖産興業など、土佐の地域開発・国力増強を推し進めた人物です。本展では、兼山ゆかりの資料を幅広く紹介し、兼山の事績とその時代を振り返ります。

物部川絵図（安芸市立歴史民俗資料館蔵）

双子のすくすくだより

令和６年４月６日に誕生したジャガーの双子（雌雄）はすくすく成長し、とても大きくなりました。名前は来園者の投票により、高知県出身であるやなせたかしさんの代表作「アンパンマンのマーチ」の歌詞から「アイ」と「ユウキ」に決定しました。

生まれてすぐは、ユウキの方がやんちゃで、アイはおとなしい印象でしたが、今ではアイの方がやんちゃになってきました。そして食い意地もすごく、まるではちきんのようです。

ジャガーの親子は毎日13：30から展示しています。ぜひ見に来てください。

（和の森わんぱーくこうちアニマルランド）

左：アイ　右：ユウキ
［生後１か月半］

左：ユウキ　右：ココ（母）［令和７年１月］

アイ［令和７年１月］

活動報告

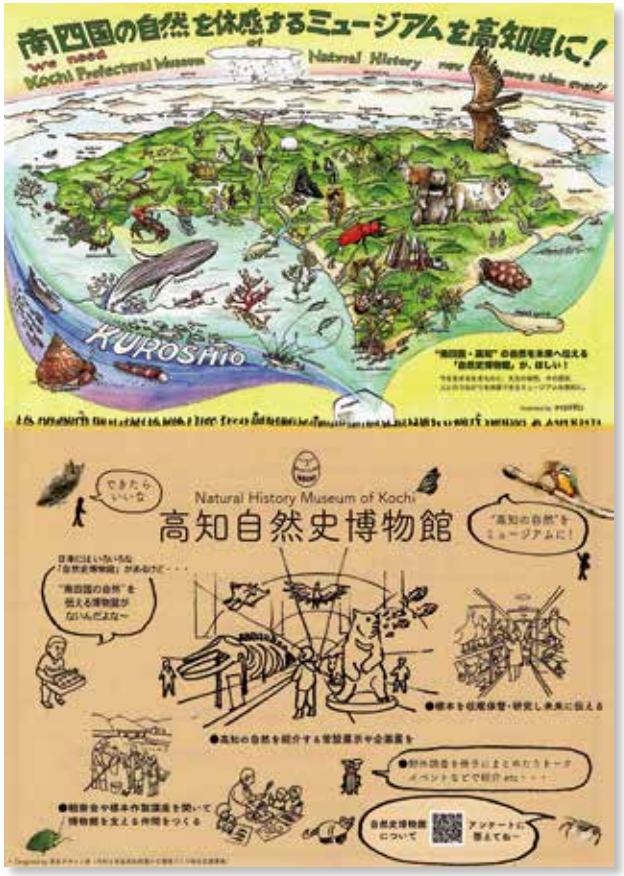
◆第18回 四国ミュージアム研究会 愛媛大会
（3月16日－17日　四国西予ジオミュージアム）

今回の大会のテーマは、「収蔵資料のいまとこれから―減るヒトと増えるモノをめぐるミュージアム―」とされ、四国四県から各県の状況について紹介がなされました。高知県からは、「高知県における自然史標本保管状況と高知県立自然史博物館設立を要望する市民活動の紹介」と題し、私が話題提供を行いました。

まず、令和３年度に当ネットワークが行った高知県内の生物標本保管状況を把握するための聞取り調査の結果を示しました。高知県内には様々な生物分野が含まれる標本のコレクションが存在していること、その中には数年以内に維持管理ができなくなり、消失あるいは散逸してしまうことを報告しました。そして、これらの標本を守るために始まった具体的な活動として、「高校生と連携した昆虫標本整理」、「遊休施設を利用した標本の一時保管場所の構築」、「高知県に自然史博物館設立を求める任意団体の発足」などを紹介しました。

会場からは多くのご意見、ご質問をいただきました。これから多様な分野の施設と情報を共有し、四国内の生物標本を含めた資料の存続と活用を充実化させていくことを検討していこうと思います。

（越知町立横倉山自然の森博物館　谷地森　秀二）



研修会報告

画人河田小龍の生誕２００年にあわせた、高知県立美術館、高知県立歴史民俗資料館、高知県立坂本龍馬記念館の３館による連携企画「河田小龍」展。展示担当学芸員さんの解説を聞きながら３館を巡る研修会が、令和６年12月10日におこなわれました。

様々な絵画を展示した美術館の「激動期への眼差し」展。小龍の門人である海援隊士新宮馬之助の描いた巨大な絵馬のパネルが目をひく、龍馬記念館の「龍馬に世界を教えた男」展。長宗我部信親作と伝わる絵画を展示し、長宗我部氏と小龍とのつながりについても考えさせられた、歴民館の「土佐の人々とのつながり」展。３館それぞれの特性を活かした河田小龍へのアプローチはたいへん見応えがあり、学芸員さんの懇切丁寧な解説にいっそう理解を深めることができました。また、自然科学系の参加者から専門家としての知見が披露される場面もあり、様々な分野・施設が集まった当ネットワークの強みを改めて実感したことでもありました。

移動中のバスの中での、担当学芸員さんお二人の漫才を思わせる軽妙なやりとりも含め、非常に充実した豊かな内容の研修でした。

（高知県立図書館　渡邊　哲哉）

令和６年度（２０２４）活動報告

【企画調整部会】

・総　会　５月23日

・幹事会　４月25日　11月７日　１月30日
　３月19日

・『こうちミュージアムネットワーク通信』の編集

・「どっぷり高知旅」事業への協力

【研修教育普及部会】

・情報交換会　５月23日

①「中土佐町立美術館　高台移転へ」市川雅彦（中土佐町立美術館）

②「四万十町文化的施設について（報告）」大河原信子（四万十町立美術館）

③「豊後水道地震の被災情報の収集について」「文化財くん蒸薬剤の現状報告」田井東浩平（高知県立高知城歴史博物館）

④「国民文化祭（よさこい高知文化祭）の開催について」松本真樹（高知県文化生活部　国民文化祭課）

・見学会　５月23日
　高知県立高知追手前高等学校　校史資料、米軍弾痕、奉安殿等。

・研修会　12月10日
　「高知県立歴史民俗資料館、高知県立美術館、高知県立坂本龍馬記念館　三館連携「河田小龍展」」（バス車内、展示室で学芸員解説を聞きながら研修）

・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿２０２４」作成

・高知市広報『あかるいまち』コラム「歴史万華鏡」リレー掲載

・高知小津高等学校ＳＳＨ事業への協力
　11月11日

【地域資料調査部会】

・４月17日発生した豊後水道地震に伴い、高知県西部地域の文化施設を対象に被災情報の収集を実施

・８月23日　文化財防災に係る研修会

①「豊後水道沖を震源とする地震による文化財被害報告」矢木伸欣（宿毛市立宿毛歴史館）

②「文化財防災を考える―平常時の取り組みと災害時の対応」中島志保（国立文化財機構　文化財防災センター）

【新入会員】

「高知に自然史博物館をつくる会」「寺田寅彦友の会」「ゆずロードミュージアム」

【共催事業】

・シンポジウム「南四国の自然を体感するミュージアムの建設に向けて」３月29日

※「どっぷり高知旅」事業への協力
　高知県が展開する「どっぷり高知旅キャンペーン」に協力し、こうちミュージアムネットワークならではのガイド集を作成した。

・タイトル「知りたい！言いたい！おもてなしネタ帳」（試作版）

・趣旨　現在、観光情報はすぐれたデザインできれいな印刷のパンフレット類さらにインターネット上であふれんばかりであり、観光客は興味をひかれたことはすぐ検索できる。しかし現地の人と会話することによる驚き、気づきなど対面の意義は絶対ある。そこで、観光客ではなくタクシー運転手、ホテルや道の駅スタッフに活用していただくガイド集を構想した。

・構成
　(1)県全体
　(2)エリア別（安芸・室戸／物部川／嶺北／高知市／仁淀川／奥四万十／四万十・足摺）ごとに各論
　(3)テーマ別（車窓から見える風景・高知市内ホテル周辺・都道府県別、高知県との関係情報）

・仕様　Ａ４版　72ページ　１，０００部

・配布先　観光、宿泊、タクシー会社等

●こうちミュージアムネットワーク　会員一覧●

地　域	施　設　名	電話番号
東　部	安芸市立書道美術館	0887-34-1613
	安芸市立歴史民俗資料館	0887-34-3706
	絵金蔵	0887-57-7117
	香美市立美術館	0887-53-5110
	香美市立やなせたかし記念館	0887-59-2300
	香美市立吉井勇記念館	0887-58-2220
	キラメッセ室戸 鯨館	0887-25-3377
	芸西村文化資料館・筒井美術館	0887-33-2400
	高知県立芸西天文学習館	088-824-5451（高知県文教協会）
	高知県立のいち動物公園	0887-56-3500
	香南市文化財センター	0887-54-2296
	金剛頂寺霊宝館	0887-23-0026
	創造広場アクトランド	0887-56-1501
	中岡慎太郎館	0887-38-8600
	民間非営利団体 高知文化財研究所	0887-52-0736
	室戸ジオパーク推進協議会	0887-22-5161
	むろと廃校水族館	0887-22-0815
	安田まちなみ交流館・和	0887-38-3047
	ゆずロードミュージアム	0887-30-1865
	龍河洞博物館	0887-53-2144
中　部	いの町紙の博物館	088-893-0886
	いの町立吾北中央公民館	088-867-2133
	越知町立横倉山自然の森博物館	0889-26-1060
	和の森わんぱーくこうちアニマルランド	088-832-0189
	高知県の学校資料を考える会	090-2780-3775
	高知県文化財団	088-866-8013
	高知県文化生活部文化国際課	088-823-9605
	高知県文化生活部歴史文化財課	088-823-9112
	高知県立高知城歴史博物館	088-871-1600
	高知県立公文書館	088-856-5024
	高知県立坂本龍馬記念館	088-841-0001
	高知県立大学附属図書館	088-821-7129
	高知県立図書館	088-823-4946
	高知県立美術館	088-866-8000
	高知県立文学館	088-822-0231
	高知県立埋蔵文化財センター	088-864-0671
	高知県立牧野植物園	088-882-2601
	高知県立歴史民俗資料館	088-862-2211
	高知市文化振興課	088-821-9215
	高知市春野郷土資料館	088-894-2805
	高知市民図書館	088-823-4946
	高知市立自由民権記念館	088-831-3336

地　域	施　設　名	電話番号
中　部	高知市立龍馬の生まれたまち記念館	088-820-1115
	高知城懐徳館（高知城管理事務所）	088-824-5701
	高知地域資料保存ネットワーク	090-5272-8852
	高知に自然史博物館をつくる会	090-4605-5531
	高知みらい科学館	088-823-7767
	子どものための民具体験館	088-822-1764
	佐川町立佐川地質館	0889-22-5500
	佐川町立青山文庫	0889-22-0348
	四国自然史科学研究センター	0889-40-0840
	定福寺宝物殿	0887-74-0301
	すさきまちかどギャラリー / 旧三浦邸	050-8803-8668
	竹林寺宝物館	088-882-3085
	特定非営利活動法人 地域文化計画	080-6721-3074
	寺田寅彦記念館友の会	088-873-0664
	土佐市立市民図書館	088-852-3333
	土佐豊永万葉植物園	0887-74-0301
	とさの森美術館	0887-82-0483
	豊永郷民俗資料館	0887-74-0305
	中村時計博物館	088-864-2458
	認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	088-820-8250
	平和資料館草の家	088-875-1275
	まんが王国・土佐 情報発信拠点 高知まんが BASE	088-855-5390
	本山町立大原富枝文学館	0887-76-2837
	横山隆一記念まんが館	088-883-5029
	よさこい文化協会	090-8978-8219
	藁工ミュージアム	088-879-6800
西　部	大方あかつき館（上林暁文学館）	0880-43-2110
	海洋堂かっぱ館	0880-29-3678
	海洋堂ホビー館四万十	0880-29-3355
	高知県立足摺海洋館 SATOUMI	0880-85-0635
	古渓城	0880-22-1654
	四万十市郷土博物館	0880-35-4096
	四万十町立美術館	0880-22-5000
	ジョン万次郎資料館	0880-82-3155
	宿毛市立坂本図書館	0880-63-2654
	宿毛市立宿毛歴史館	0880-63-5496
	津野町立図書館かわうそ館	0889-55-3001
	津野町立図書館虎太郎館	0889-62-3555
	特定非営利活動法人 黒潮実感センター	0880-62-8022
	土佐清水ジオパーク推進協議会	0880-87-9590
	中土佐町立美術館	0889-52-4444

こうちミュージアムネットワーク通信 第22号　令和7(2025)年3月31日発行
■編　集　こうちミュージアムネットワーク
■事務局　高知県立高知城歴史博物館　■電話　088-871-1629　■https://www.kochi-mn.net